

令和元年7月臨時教育委員会会議録

令和元年7月24日 臨時熊谷市教育委員会を熊谷市役所議会棟第一委員会室に招集する。

- 出席者
野原 晃、加藤 道子、齋藤 洪太、本塚 雄一郎、西山 富由紀
- 出席事務局
教育次長 小林 教子
教育総務課長 田島 斉
学校教育課長 渋谷 昌美
学校教育課指導主事 高草木 裕也
教育総務課副課長 長島 千恵
教育総務課主任 吉場 美和
- 令和元年度第17採択地区教科書選定委員会委員長及び委員

9時00分 臨時教育委員会開会

教育長から、令和元年7月臨時熊谷市教育委員会の開会の宣言があり、傍聴希望者10名の入室が許可され、本会議の会議録の署名人には、齋藤委員が指名された。

教育長から、議案第34号及び議案第35号の採決部分是非公開としたい旨の発言があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議されることに決定した。

日程（議案第34号）令和2年度使用小学校用教科書（特別の教科 道徳を含む）の採択について

日程（議案第35号）令和2年度使用中学校用教科書（特別の教科 道徳を除く）の採択について

教育長から、議案第34号と議案第35号について、一括して説明するよう発言があり、事務局等から、以下のとおり説明があった。

○事務局

両議案は、令和2年度から熊谷市立小・中学校で使用する教科用図書の採択をお願いするものである。

教科書の採択については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条により、埼玉県教育委員会の指導助言の下、本市教育委員会で行うこととされていることから、教科書の採択を行うもので、今年度採択する教科書は、特別の教科 道徳を含む小学校用教

科書及び特別の教科 道徳を除く中学校用教科書である。

本日までに教科書調査研究専門委員会による研究、学校研究及び教科書展示会アンケートを基に、教科書選定委員会において、全ての教科書について協議・検討を重ねてきた。

本日の協議では、各種目の担当の選定委員から、これまでの協議、検討を基に、本市の小・中学校で使用する教科書について推薦を行い、教育委員会委員の皆様には、選定委員からの推薦について、協議をおこなっていただき、協議終了後、議案第34号及び議案第35号、それぞれの議案について採決をお願いする。

○教育長

小学校用教科書 理科について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、6社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「信州教育出版」、「啓林館」のうち、「教育出版」と「啓林館」の2社を推薦する。

「教育出版」は、全体的な特徴として、学習の流れが分かりやすく、実験器具の取扱いやノートの書き方を丁寧に扱っている。「予想」や「結果」についての理由を書かせる表示があり、自分の考えの根拠を明らかにし、思考を整理し、話し合い活動などで内容を深められるようになっている。

5年の教科書106ページを見ていただくと、ノートに「予想の理由や結果の見通し」が書いてあり、実験では、予想を基に実験計画を考える具体例が示されている。実験の回数は、教育出版だけが5回行うようになっており、他社に比べ、正確な値を得ることができる。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、各教科で学習した内容の記載があり、特に国語科と算数科との関連については具体例が示されている。中学校の理科学習に見通しが持てる工夫もされている。

熊谷市の子供たちは、「必要な情報は何かを考えることや根拠を持って自分の考えをまとめること、いくつかの結果を分析し自分なりの考えを持つこと」に課題があるが、挿絵の子供たちの言葉には「考えた理由」が記されており、自分や友達の考えの根拠を理解することで考えを広げることができる。

熊谷市を取り上げた「グリーンカーテン」や「ムサシトミヨ」の資料も掲載され、子供たちに親しみを持たせることもできる。

「啓林館」は、全体的な特徴として、各学年で学ぶことや学習の流れを意識させるように工夫されている。

問題解決の過程は、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説が示され

ている。

まとめにおいて、「振り返ろう」「まとめよう」のページがあり、単元で学習した重要な内容がわかりやすくまとめられている。

単元の終わりの「まとめノート」は、学習したことが簡潔に表現されているため、ノートの見本として活用できる。単元のとびらに、その単元で学ぶ内容を問題として投げかけ、単元の最後に同じ問題を示すことで、学習したことを基に解決し、学びを実感できる構成になっている。

【質疑応答】

○委員

中学校で使用している教科書と同じ方がよいのか。

○選定委員

中学校で使用している教科書と同じでなくても、特に大きな問題はないと考える。小学校で留意したい点は「問題解決の過程と安全面への配慮」であり、どの教科書にも「問題解決の過程」が示され、安全面においても、いろいろなマークで示されている。例えば、小学校の「ものの溶け方」では「食塩とミョウバン」、中学校の「溶解度」では「食塩と硝酸カリウム」を扱っているため重複することはない。

○委員

熊谷の子供たちにとって適しているのは、どの教科書か。

○選定委員

全国学力・学習状況調査結果から分析すると、熊谷の子どもたちは、「問題に対応した視点で分析することが苦手である。つまり、必要な情報は何かを考えることが十分でない」又は、「自分の考えと異なる他者の予想を把握し、どのような結果になるかを考えることが十分でない」等の傾向が見られた。例えば、どの教科書にも比較できるような図が示されていますが、「教育出版」の横並びの資料が比較には効果があることから、熊谷の子供たちに適していると考えます。

○教育長

理科については、「教育出版」と「啓林館」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、生活について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、8社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「信州教育出版」、「光村図書」、「啓林館」、「日本文教出版」のうち、「東京書籍」と「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、全体的な特徴として、A4版でダイナミックな写真を使い興味を高めたり、約束、マーク、記録カードなどが定位置に配置され、分かりやすく使いやすい構成になっている。様々な立場の6人のキャラクターを設定し、子供の目線に立った会話を通して、育成すべき資質、能力がイメージしやすくなっている。

内容については、挨拶や約束、安全に関する資料が多く示され、適切な習慣や技能が身に付くように配慮されている。資料として、巻末に身に付けたい知識や技能がまとめられており、分かりやすく学べる。また、上巻には取り外して使える「ポケットずかん」があり、活用しやすく、気付きの質を高める工夫がある。

また、子供たちの活動や作品などの事例が多く示されており、創造的な学習活動の参考になるように工夫されている。キャラクターの会話に、気付きの深まりや思考を促す工夫がされている。

さらに、自分の学習や生活を振り返り、生活の上で必要な習慣や技能の習得を確かなものにするコーナーが設けられている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、他教科との関連を示すコーナーが設けられ、効果的な学習例を掲載している。また、他教科の学習を生かす工夫や、これからの学習へのつながりを考えた工夫もある。上巻の36ページを見ていただくと、この挿絵は種を数える場面だが、算数の物の数え方の学習が使われている。キャラクターの吹き出しが、次時の活動のヒントにつながったり、校庭や公園、商店街など同じ場所を季節ごとに掲載しているため、変化や違いに気付き、知的好奇心を高めたりできるところが良い。

ウサギやモルモットとのふれあいは、「やってみよう」で扱い、自然の中で採集した昆虫などを中心に扱い、小動物の飼育をしていない学校でも学びやすく構成されており、指導もしやすいと考えられる。

「教育出版」は、生活科の教科の目標を6つの力に分けて明記し、学習のめあてがつかみやすい構成になっている。

内容については、「学びのポケット」に生活科で学ぶ知識や技能が整理されている。また、色々な表現方法を紹介し、表現力の向上を図る工夫が見られる。板書例を示し、子供の思考を整理する工夫もある。随所にある「もしも」では、学習を基に想像力を喚起する工夫もされている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、コラム「はってん」などで、理科、社会科との関係を取り上げ、さらに下巻の終わりに明確に理科、社会科とのつながりを示してある。

【質疑応答】

○委員

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトの視点では、どのような違いがあるか。

○選定委員

子供たちの生活の中における他教科との関連という視点で見ると、東京書籍が充実している。植物の種の数の比較では、10個ずつまとめる考え方が示されていたり、ドングリや松かさを使った作品づくりなど、多くの教科との関連を持たせた資料が掲載されている点が良いと思う。

○委員

「安全への配慮」については、どのような違いがあるか。

○選定委員

探検での注意、観察中での注意、手洗い、うがいなど日常的な健康についてはどの教科書も配慮されている。その中で、1年生の生き物との触れ合いの単元では、身近な自然の生物を中心に着目している教科書と、ウサギやモルモットなど家畜哺乳類に焦点を当てている教科書がある。動物アレルギーの問題や学校での飼育状況を考えると、身近な自然の生物に焦点を当てた東京書籍は適切であると考えられる。

○教育長

生活については、「東京書籍」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、音楽について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、2社ある「教育芸術社」と「教育出版」を推薦する。

「教育芸術社」は、各題材に「共通事項」を核として表現と鑑賞を関連させながら学習できるような教材が配列されている。学習のねらいがわかりやすく示しており、重要な学習事項を自分で確認できるように「ふり返りのページ」が設けられ、知識や技能の習得ができるようになっている。

また、作品例やワークシートの例が示されたり、グループ活動の会話が例示されたりして必要な情報が示されている。具体的な活動例やヒント、専門家からのメッセージなども用意され、音楽的な見方、考え方を働かせながら学習を進められるよう配慮されている。巻末には、鑑賞資料や楽典、ふり返りのページやリコーダーの

運指表がまとめて設けてあり、さらに学習をサポートするコンテンツをICT機器で見聞きできるようになっており、主体的に学習を進められるようになっている。

全学年に「音楽づくり」があり、音楽がもつ働きや役割への気づきにつながる写真やコラムなども記載され、音楽と豊かに関わる資質、能力を育成できるように工夫されている。

5年の教科書56、57ページを見ていただくと、地域のお祭りに親しむ体験型の鑑賞学習を取り入れ、調べ学習の観点や方法が示されている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、国語の物語を歌にしたものや日本各地の民謡や世界の音楽、英語の歌があり、社会科や外国語、国際理解などに関連させて学習できる。また、低学年では、わらべうたが多く取り上げられており、生活科と関連させることができる。さらに、災害や復興がきっかけで生まれた音楽や、音楽とオリンピックやパラリンピックとの関連も掲載してある。

熊谷市の子供たちにとって、実態に合った教材が多く、音楽活動を通して無理なく音楽を形づくっている要素を捉えたり、表現や鑑賞の活動を進めたりできるように題材が系統的に構成され、6年間の学びが積み重なるようになっているところが良い。

「教育出版」は、音楽の見方、考え方を働かせながら資質、能力を育む題材、生活や社会と音楽の関わりを扱う題材、主体的、協働的に表現を楽しむ題材の大きく3つに分け、それらを育むための教材配列がされている。

「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として明記し、児童がその働きを意識しながら学ぶことができる。巻末に「共通事項」が分かりやすく図解化され、まとめて示されている。学習のねらいと学び方、学習の見通しが示され、写真や透明シート、WEB上の資料を用いて主体的に学んだり学習を深めたりできるように配慮されている。巻末には、リコーダーの運指図や資料が配置され、確めながら学習ができるように工夫されている。

音楽づくりの活動が全学年に系統的に配置され、わらべうたや各地のお祭りの音楽、民謡、世界の音楽が豊富に掲載されている。選択教材として和楽器にチャレンジする内容もある。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、日本各地の民謡や世界の音楽、外国語の歌があり、社会科や外国語、国際理解などに関連させて学習できる。また、1学年では、わらべうたが多く取り上げられており、生活科と関連させることができる。さらに災害からの復興や国語の物語を歌にした教材やかけ算九九の歌など、他の教科領域との関連を図っている。

【質疑応答】

○委員

熊谷市の児童の実態に合っているとのことだが、どんなところか。

○選定委員

教育芸術社は、小学生の実態に合った教材が多くある。無理なく演奏ができたり、音楽の要素「共通事項」がわかりやすい鑑賞曲だったりする。少しレベルの高い楽曲を経験させたいときのために、巻末に「みんなで楽しく」の補助教材が載っている点などである。

○委員

教員にとって使いやすい、指導しやすい教科書はどれか。

○選定委員

教育芸術社は、題材のねらいに迫るために各教材で扱う「共通事項」が絞られているため、学習内容が明確になって指導しやすいと考えられる。学級担任が指導することが多いが、無理なく指導できると思う。

○教育長

音楽については、「教育芸術社」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、国語について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「東京書籍」、「学校図書」、「教育出版」、「光村図書」の4社のうち、「教育出版」と「光村図書」の2社を推薦する。

「教育出版」は、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の学習のバランスを配慮したり、螺旋的、反復的に繰返し指導できるよう系統的な単元構成や内容の配置を工夫したりしている。

また、ひとつの単元の中で「読むこと」や「書くこと」の2つの内容を関連させたり、他の単元でも、「話すこと」や「聞くこと」などを関連させたりして、子供の学びが無理なく持続できるように作られている。

「教育出版」の特徴のひとつに、「知識・技能の習得」での、語彙指導があるが、6年上巻の104ページを見ていただくと、学習の手引きの中に、言葉のページが掲載されていたり、巻末144ページの「言葉の木」や145ページの「言葉のま

とめ」を掲載したりして、学習したことが、実生活の中で活用できるような構成になっている。

その他、学びに向かう力の育成においても、学習の目標と手引きが対応しているため、子供たちは目標を明確にして学びに向かい合いながら自己評価をすることができ、主体的な学習が大きく期待できる。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連でも、単元のまとめや巻末の語彙に関してのまとめが充実しているため、児童が考えたことを報告したり、感想や思いを話したりするなど、他の学習にも役立つ。

本教科書は、新学習指導要領の趣旨に基づいて顕著に改善されており、現行で使用していることもあり、若手教員からベテラン教員までが指導しやすいものと判断している。1年生から6年生まで上下の分冊になっており、児童の登下校の負担は軽減される。

「光村図書」は、教科書全体が「単元」「小単元」「特設単元」で構成され、思考、判断し表現することを通して「知識及び技能」の習得、活用、探求が着実に身に付くように配慮されている。また、学習のまとまりごとに言語活動を明確にし、学習を通して身に付ける力やその手順、文章の内容等を理解するためのポイント「たいせつ」が、各単元や下巻巻末に一覧になって示されており、学習の振り返りの活動や学習内容の積み重ねができるように作られている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関わりだが、単元の最後に「いかそう」が設けられており、他の学習活動での活用場面が提示されていたり、観察記録文や新聞の作成、インターネットの活用の仕方を設けたりして他教科との関連が図られている。

【質疑応答】

○委員

他教科との関連や、日常生活につながるような学習は、どのように工夫されているか。

○選定委員

どの教科書も他教科との関連を意識して作成されている。「教育出版」は、説明的な文章が、他の教科の内容になっていたり、「話すこと、聞くこと」の低学年の題材が、生活科と結びついたりしている。

○委員

国語はとても大切な教科と考えているが、日常生活において、また、各教科の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けさせるためにどのような工夫が見られるか。

○選定委員

日常生活において「話すこと」「聞くこと」といった学習活動とつながるように、「教育出版」では、日常場面を題材として扱っている。

どちらの教科書も、単元末に、学習の手引きが示されていて、学習の進め方が丁寧に書かれている。学習の進め方の下の段に、学習の手順に従ったヒントが掲載されているが、「教育出版」は、児童の発言としてまとめられている。

○教育長

国語については、「教育出版」と「光村図書」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、書写について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「東京書籍」、「学校図書」、「教育出版」、「光村図書」、「日本文教出版」の5社のうち、「教育出版」と「光村図書」の2社を推薦する。

「教育出版」は、「主体的・対話的で深い学び」を実現させる工夫として、5つのしかけ、「思考を促す図版」、「学習プロセス」、「活動写真」、「対話の言葉」、「学習方法の選択」があり、何をどのように学ぶかが明確に示されている。そのため、子供たちが学びやすく、教師も教えやすいと感じる。

また、目次では、「何を学ぶか」「何が身に付くのか」「前学年で学んだこと」が示されており、学年間の系統性も明確になっていて「適切に運筆する力」を付けるために、「よい姿勢」や「鉛筆の持ち方」が写真で示されている。また、「よい姿勢の合言葉」として、全学年で「こし ぴん」、「足 ぺた」、「ぐう 一つ」も示されているので、より確実な定着が期待できる。

どの学年においても「学習の進め方」が示されており、児童が1時間の授業の見通しをもって学べるようになっている。また、中高学年では学習を進めるための7つのキーワード「見つける」「比べる」「書く」「確かめる」「振り返る」「伝え合う」「広げる」も示されていて、これも子供が学びやすくなるための工夫だと考えられる。

4年生の31ページを見ていただくと、見開き完結型の紙面構成になっており、右ページは文字をじっくりと見る視点から、左ページは学ぶポイントの視点からまとめられている。特に、左ページは「めあて」「考えよう」「ここが大切」「ためし書き」「まとめ書き」「生かそう」「振り返ろう」の構成となっており、自然と学び方が

分かり、書写技能の定着や学んだことが自覚できるようになっていて、課題解決力も高まると考えられる。また、4年生の27ページにもあるように、他の教科、ここでは理科の学習にも応用できる教科横断的な構成も本書の魅力となっている。学習内容を明確にした授業の展開を目指す熊谷市の教科書として使いやすいものであると考えられる。

「光村図書」は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫として、3年生以上の各教材に、「導入」「理解」「確認」「活用」「振り返り」という展開がひと目で分かるように構成されている。全学年に、「姿勢、筆の持ち方、漢字の成り立ち」を楽しいイラストで解説する漢字図鑑を示している。また、児童が見通しをもって学習できるよう、3年生以上の巻頭に「考えよう、確かめよう、生かそう」の学習過程を明確に示し、見通しをもって主体的に学べるように工夫されている。その他、書写で身に付けた力が、日常生活でも生きて働くように、「1年、句読点の位置」、「2年、原稿用紙」、「3年、手紙の書き方」、「4年、リーフレットの書き方」、「5年、インタビューメモの書き方」、「6年、短歌を書こう」などを掲載したり、1、2年生では、生活科（招待状の書き方）や算数科（横書きの書き方）を掲載したりしている。

ただ、毛筆教材としての「カタカナ」教材がなかったり、筆の運びや穂先の動きを朱墨を使って視覚的に捉えているが、朱墨の文字が小さく、見にくさを感じられる。

【質疑応答】

○委員

何事も基礎、基本を学ぶことはとても大切だが、基礎、基本的な知識、技能の定着を図るための工夫は、どのようにされているか。

○選定委員

どの教科書でも、平仮名を初めて扱うページでは、書き始めや止めるところ、はらうところについて、矢印や点を使って説明している。特に、「教育出版」では、平仮名の「く」の字の止める位置も2箇所になっています。また、「とめ」「はらい」等のポイントが一目で分かる「書写の体操」も役立つ資料だと考える。

○委員

子供たちに課題解決の力を付けるための工夫は、どのようにされているか。

○選定委員

どの教科書でも、めあてと学習の進め方について書かれている。特に、教育出版では、「めあて」「考えよう」「ここが大切」「ためし書き」「まとめ書き」「生かそう」

「ふり返ろう」の構成となっており、自然と学び方が分かり、書写技能の定着と学んだことを自覚できるようになっているため、問題解決の力も高まると考えられる。

○教育長

書写については、「教育出版」と「光村図書」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、社会について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、3社ある「東京書籍」、「教育出版」、「日本文教出版」のうち、「東京書籍」と「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、問題解決的な学習過程を「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」として明確に示していること、各ページに学習過程が示されており児童自身が見通しをもって学習できるようになっている。

また、重要なキーワードを「ことば」として詳しく解説している。「まなび方コーナー」で、様々な学習方法を示しており、多様な社会的な見方、考え方が養えるようになっている。まとめ方も具体例を多数示していることが特徴的である。さらに、「社会的な見方、考え方」について、ドラえもんのキャラクターを目印にして、空間、時間、相互関係、比較、関連など「社会的な見方、考え方」を働かせて問題解決的な学習を進めることができるようになっている。

資料は、写真や実際の資料等が数多く掲載されていて、調べる過程において有効に活用できる。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、教科横断的な視点では、「教科関連マーク」によって関連する他教科がわかりやすく示され、他教科との関わりを意識しながら学習ができる。5年生上の42、43ページ「国土の気候の特色」を見ていただくと、「気候」のことばの説明と共に、ページの下に理科の「天気の変化」と関連することが示されている。

熊谷の子供たちにとって、問題解決的な学習過程が明確に示され、各ページにもそれぞれの学習過程が示されており、問題解決的な学習が進めやすくなっている。また、5、6年生は2冊に分冊となっており、持ち帰りの際の児童の負担軽減につながる。

「教育出版」は、学習過程を「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」とし、

問題解決的な学習が展開しやすくなっている。また、各ページの最後に「次につなげよう」が示されていて、次の時間とのスムーズなつながりが図れる。キャラクターの会話を使いながら、資料と関連させて授業が進んでいくように構成が工夫されている。

資料では想像図が大きく掲載されていて、児童が興味関心をもって、想像し調べていけるようになっている。

重要語句はキーワードで示されていて、「学びの手引き」では、学習技能を系統的に配置し、「社会的な見方、考え方」を働かせた学びを促している。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、教科横断的な視点、「ひろげる」の時間において他教科にわたる学習内容が設定されている。

【質疑応答】

○委員

自分で課題をたてて調べていく学習の進め方、社会的な見方、考え方を生かすことについてどのような工夫がされているか。

○選定委員

東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の単元構成が各時間のページに記載されている。問題解決的な学習を児童が展開しやすく工夫をしている。また、「社会的な見方や考え方」について、ドラえもののキャラクターを目印に空間、時間、相互関係などが示してあり、自分で課題をたてて調べていくという学習を進めることができるようになっている。

○委員

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトの視点では、どのように工夫されているか。

○選定委員

東京書籍は「教科関連マーク」で関連する教科と単元を示し、他教科との関連を意識して学習が進められるように工夫されている。

○教育長

社会については、「東京書籍」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、地図について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、2社ある「東京書籍」と「帝国書院」を推薦する。

「帝国書院」は、3年生からの使用を踏まえ、「地図って何だろう」のページから地図の成り立ちを学習し、その後「地図の約束」、「地図帳の使い方」と段階を踏んでわかりやすく学べる構成になっている。地図記号がどのようにして形付けられたかを丁寧に解説し、中学年児童が学習しやすいように配慮されている。

3年生から6年生用地図帳の23、24ページを見ていただくと、「広く見わたす地図」では、縮尺を160万分の1サイズにして情報を精選して掲載することで、日本の地形や特産物、名所などがわかりやすく捉えられるよう工夫されている。また、資料活用能力を高めるための機能として「二次元コード」が新設された。インターネットを使った学習とリンクできるようにQRコードが示されている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、主体的に地図を活用できるように、24ページの下「地図マスターへの道」を設け、算数など発展的に学習できるよう工夫されていて、児童の主体的な学習を促す工夫がある。

表記では、都道府県名や都道府県庁の所在地名の漢字に「とめ、はね、はらい」が正確なUDフォントを独自開発して採用している。色合いは、地域の特色ある土地表現が読み取れるように、土地の高さによる色分けと、土地の使い方による色分けを組み合わせた地図表現になっています。さらに、中学年向けの親しみやすい表現の地図、縮尺160万分の1のものから高学年向けの詳しい表現の地図、こちらは100万分の1になっているが、その順に配列し、発達段階に配慮されている。

熊谷の子供たちにとって、学習内容を明確にし、問題解決的な学習の展開により思考力、判断力、表現力を育成していくことに十分活用できると考える。

「東京書籍」は、中学年から地図帳に親しみをもって意欲的に活用できるよう、登場人物などのイラストが多く掲載されている。また、吹き出しによって地図の見方や児童への問いを示しており、児童の主体的な学習を促している。

3学年からの使用を踏まえ、「まちを上からながめてみよう」からスタートし、ページ全体の大きな鳥瞰図を用いて、「鳥瞰図」から「真上からの図」、そして「地図」へという視点の変換を展開している。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、Dマークが付いているページに関しては、インターネットを使った学習ができるようになっている。

表記については、地図中の文字は見やすくUDフォントで表記されています。また、各都道府県名及び国名は、わかりやすくするために赤の太字に白い縁取りで表記されている。

【質疑応答】

○委員

両社において、他の教科との関連も考えてつくられていると思うが、具体的にはどのような工夫がされているか。

○選定委員

例えば、帝国書院は、外国語活動で14か国語のあいさつの紹介がある。首都名に英語を付記したり、外国から日本に伝わった言葉などを示し関連を図っている。また、算数の「きよりの求め方」、理科の「方位磁針」、音楽の「音楽のぶたい」など、特別な凡例やイラストを設けているページがある。道徳では、題材に取り上げられることの多い人物のイラストを掲載するなどして、工夫がされている。

○委員

3年生から地図帳を使用することについての工夫点はどこか。

○選定委員

帝国書院は、「地図って何だろう」から「地図のやくそく」、「地図帳の使い方」と地図について、児童が段階的に分かりやすく学べるように構成されている。また、160万分の1の「広くみわたす地図」を新設し、内容を精選し大きなイラストにより3年生にもわかりやすく親しみやすい工夫がされている。

○教育長

地図については、「帝国書院」と「東京書籍」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、算数について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、6社ある「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「啓林館」、「日本文教出版」のうち、「東京書籍」と「啓林館」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、算数の基礎的、基本的な知識、技能を確実に身に付けられるように、問題解決的な学習活動を重視した構成になっている。また、個々に適した補充問題で定着を図ったり、わからなければ自分で学び直しをしたりすることができるようになっている。さらに、数学的な見方、考え方を働かせた学びを実現するために、各時間の学習のまとめに、問題解決の過程で働かせる数学的な見方、考え方

を価値付け、既習の内容と統合したり発展的に考えたりできる学習展開になっている。

特徴としては、巻末の資料として、基礎的、基本的な内容をより確実に身に付けたり、深めたりできるように、習熟を図る「補充問題」、発展的な学習の「おもしろ問題にチャレンジ」、既習を振り返る「ふり返りコーナー」、学習した用語や記号の意味を振り返る「さく引」を設定しているところである。また、できるだけ実物の写真を使用し、実生活との関連を意識しやすいように配慮されている。さらに、数直線の図のかき方など、学習指導要領の算数解説編と同様のかき方をしている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、4年生上の22、23ページを見ていただくと、4年生の「折れ線グラフ」と理科の「天気の様子と気温」など、内容的に関連が深い内容については、指導の時期を考慮した配列位置にし、相互に理解を深め、効果的に学習が進められるようになっている。

熊谷の子供たちにとって、子供たちが一人で学ぶことができ、困った時に振り返ることができるなど、丁寧なステップを踏んだつくりになっており、若手教員にとって指導しやすい点があげられる。熊谷市が目指す「学力日本一」に向けて、個々の児童の学力向上にも大変効果的であると思う。

「啓林館」は、算数の基礎的、基本的な知識、技能の定着を図るための系統性が重視され、他教科との関連や中学校数学も意識した内容になっている。2年生以上の上巻のはじめに、「教科書の使い方」「学習の進め方」「わくわく算数学習」「わくわく算数ノート」のコーナーが設けられ、問題解決型の学習を通して、自分の考えを書いたり、話したりして、理解が深まっていくことを習得しながら、よりよく考える資質、能力を伸ばしていくことができるように配慮されている。

QRコードを掲載して、タブレットで読み取ると学習の参考となるコンテンツを閲覧することができる。

キャリア教育の一環として算数が様々な職業につながっていることができる内容を紹介したり、3年生や6年生で他国の文化を紹介する題材や国際協力についての題材等を取り上げたりしている。

特徴としては、問題解決や言語活動の場面で有効なテープ図、線分図、数直線等について、特に線分図を重視し工夫されている。

【質疑応答】

○委員

本市は「学力日本一」を目指しているところだが、基礎、基本を押さえることが大事である。基礎、基本が身に付いて、また、子供が主体的に考えられるよう配慮されている教科書はどれか。

○選定委員

どの教科書も、基礎的、基本的な知識や技能が、確実に身に付くように配慮されている。

子供の主体的な学びという点からは、子供の思考に合った東京書籍がよいと思う。

単元内の配列を例にして説明すると、5年生の「四角形と三角形の面積」では、4年生で習った長方形の面積の求め方が活用できるように、平行四辺形から入っていくため、児童にとってわかりやすいと思う。

○委員

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関係で、教科横断的に大きな視点から見られるような教科書はどれか。

○選定委員

東京書籍の教科書がよいと考える。3年生の「重さ」と理科の「重さ」など、内容的に関連深い内容の指導時期を考慮した配列位置にしたり、他教科との関連が強い単元や教材についてはマークを付けて関連を明らかにするなど、教科横断的、そして合科的なカリキュラム編成の参考とすることができるようになっている。

○教育長

算数については、「東京書籍」と「啓林館」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし

【休憩】

○教育長

次に、図工について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「開隆堂」、「日本文教出版」の2社について報告する。

「日本文教出版」は、各題材の学習のめあてとして項目ごとに、3つの学習のめあてが表記されています。「見つけたり、工夫したりすること。」「感じたり、考えたりすること。」「活動の中で、楽しんですること。」「楽しむ」という内容である。これを具体的に、例えば、「○○をつくる」「○○を考える」「○○を楽しむ」等の表記で児童にねらいをしっかりとつかませる工夫をしている。

次に5、6年生の上巻の14、15ページを見ていただくと、作っている児童の様子や表情が、主体的、対話的で深い学びの順番に、常になっている。主体的な学

びでの児童の表情と、吹き出しにある言葉や、対話的な学びでの写真と、問いかけの吹き出しの言葉、そして、深い学びでの児童の様子と吹き出しの言葉が各題材ごとに構成されている。多くの題材で、活動している子供の写真と参考作品をリンクさせているのが特徴である。

さらに、材料と用具のページでは、「児童の思いを形にするために技能を育てる。」という基礎、基本を教えるページになっており、6年間の経験を見通した構成になっている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連では、「つながり・ひろがり」のページの中で、地域とのつながりを総合的に示した内容があり、熊谷の児童の実際の学習活動につながる内容となっている。

「開隆堂」は、学習のめあてや振り返りをキャラクターで表示してあり、育てたい3つの資質、能力や、学習のヒントを投げかけている。題材のまとめをするときは、「振り返り」のマークが記載され、自己評価ができるようになっている。

どの題材においても、QRコードを利用してインターネット経由で音声データを聴くことができます。ただし、各学校のICT環境を整える必要があるかと思われる。

教える教員にとっては、参考となる教科書の実践は、いろいろな形があったほうが良いと考える。教師が、教科書や指導書、子供や地域の実態から、いかに題材をアレンジできるか、その視点で見ると「日本文教出版」は、作品がバラエティーに富んでいると考える。

【質疑応答】

○委員

同じような題材を使っていて、比較できるものがあるか。

○選定委員

「開隆堂」と「日本文教出版」のどちらも針金アートの題材がある。「開隆堂」の題材名は「見つけて！ワイヤードリーム」、「日本文教出版」の題材名は「立ち上がれ！ワイヤーアート」である。「日本文教出版」の題材名は子供がすぐにやりたくなる題材名となっている。また、学習のめあては、「開隆堂」が、「はりがねでつくることをたのしもう」、「日本文教出版」が、「はり金を使って立体的な形をつくることを楽しむ」になっている。「日本文教出版」のように「立体的に」の表記があることは、児童にとってとても大事であると考えている。

○委員

2社の決定的な違いはどのようなところか。

○選定委員

学習のめあてでの文末表現の違いかと思う。「～しよう」と「表す」では、「表す」の方が児童への働きかけが強く、「日本文教出版」の表記はよいと思う。また、子供たちの写真が違ふと思う。「日本文教出版」は、大人の指示があるポーズ的な写真ではなく、実際に子供が作業をしているところを撮影していると思われる子供の表情が掲載されている。

○教育長

図工については、「日本文教出版」と「開隆堂」という説明があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

【休憩】

○教育長

次に、家庭について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、2社ある「東京書籍」と「開隆堂」を推薦する。

「開隆堂」は、家庭科の学習は、自らの生活を切り開き、生きていくための基礎となる教科である。生活を自分のこととして捉え、身に付いた知識、技能を自らの生活に生かしていくために、「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」の3ステップで題材が構成されている。基礎的、基本的な学習をスモールステップで積み重ねていくことで、確実に知識、技能を身に付け、生活に生きる確かな力を育むことができるような工夫がされている。

5、6年生の教科書2ページを見ていただくと、「針と糸を使ってぬってみよう」では、濃淡のある画像と赤い糸を資料として用いているため、一目でわかる資料になっている。特に、児童のつまずきが多く見られる「玉結び」の「糸をより合わせる」というポイントについては、青いまるで示しているように、指が透けて見えるなどわかりやすく示されている。

また、資料は、用具の説明や安全への配慮について詳しく触れており、写真やイラストを用いてわかりやすく示されている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、教科横断的な視点では、「環境」や「防災」など今日的な課題が関連する他教科がわかりやすく示されており、イラスト等で見やすくなっている。また、家庭科の内容に関する英単語が紹介

されている。さらに、QRコードで、画像を見ながら学習できるページがあり、調理や実習の様子など課題を自力解決するための手がかりとなる効果的な資料等が示されている。

熊谷の子供たちにとって、3つのステップを基本とした学習過程になっており、見方、考え方を働かせながら、生活を「自分のこと」としているところが適している。

「東京書籍」は、家庭科の見方、考え方「家庭科の窓」の設定、見通しが立てられる導入の工夫、学習の振り返りを充実させ、生活をよりよく変えていく力が身に付けられるようになっている。A4判を用い、1つの実習を見開きで概観することができるため、開いた状態で見ながら実習できるレイアウトにしてあり、写真や絵も見やすく構成が工夫されている。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連ですが、教科横断的な視点で、他の題材や教科、学年の学習内容との関連が「リンク」と示されています。また、DマークのQRコードもあり、画像や動画を見ながら学習できるコーナーもあります。家庭科で、学習した知識や技能をもとに、生活の中で生かす視点を入れたり、家族のための製作を示唆する内容を示したり、実践的な活動を家庭や地域で行うことができるように工夫されている。

【質疑応答】

○委員

衣食住などに関する実践的、体験的な活動の扱いについてはどうか。

○選定委員

開隆堂は、調理やソーイングなど基礎的、基本的な学習をスモールステップで積み重ねることで着実に知識、技能を身に付けられる構成になっている。「つくってみよう」と感じる実習例、製作例が多数掲載されています。また、将来につながるキャリアの紹介があり、仕事についての興味をもたせることができる。

○委員

熊谷の子供たちには、どちらを勧めるか。

○選定委員

「開隆堂」であると考える。

家庭科の学習は、自らの生活を切り開き、生きていくための基盤となる教科である。他教科との関連、中学校との接続など多様な視点を各学習内容に関連させている。生活に生きる確かな力を育むために「開隆堂」が適切であると考える。

○教育長

家庭については、「開隆堂」と「東京書籍」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、体育について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「東京書籍」、「大日本図書」、「日本文教出版社」、「光文書院」「学研」の5社うち、「東京書籍」と「学研」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、特徴として、文節改行で児童にとって読みやすく理解しやすいこと、他教科との関連が明確でわかりやすいこと、教科書に直接書き込めるスペースが確保されていること、これは東京書籍だけの構成だが、例えば、「新しい保健5・6年」を見ていただくと、各章の初めのページが見開きになっており、各項目が「きづく・見付ける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4つのステップが4ページで構成されていて、課題をつかみやすい構成になっていることが挙げられる。

内容についてだが、各単元の導入では、学習課題に関連した写真や資料が掲載され、毎時間の学習課題につながるように工夫されている。また、デジタルコンテンツが用意されていて、映像資料が簡単に表示できるようになっていたり、各単元の扉に学習の進め方が明記されたりしていて、児童が見通しをもって学習できる工夫が見られる。

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、例えば「新しいほけん3・4年」の10ページでは、体の部分の名前が英語表記されたり、4ページ「つながよう」では、理科、家庭科、道徳などの教科で、どの学年がどの教科と関連しているかが表示されたりしており、他の教科を意識することができると思う。

本教科書は、現行で本採択地区で採択し、県内でも一番多く採択されている教科書でもある。

「学研」は、学習指導要領が目指す育成すべき資質、能力との関わりについては、単元ごとに、「学ぶこと」「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」と課題解決学習の一連の流れがわかりやすく設定されており、児童が主体的、対話的に学習することができる。友達と一緒にやる活動の「友達と」マークや、教え合い、学び合い活動の「共有」マークなどが示されており、協働的な学習や対話的な学習ができるようになっている。また、各単元の終末には、「もっと知りたい・調べたい」のページが設定されていて、児童が学習したことをより広く深く調べることができ

るよう工夫されている。さらに紙面構成が課題解決的な学習の進め方を示しているため、その解決に向けて思考、判断したり、表現したりすることができるようになっている。

内容については、キャリア教育の視点から様々な職業を取り上げたり、科学的な資料を豊富に取り上げたりして、生活との結びつきを感じられるような構成になっている。また、表記、表現では、イラストや写真等の資料が多く、文章での解説が短いので、児童が視覚的に理解しやすいよう工夫されている。

【質疑応答】

○委員

「東京書籍」と「学研」の2社において、大きな違いがあるか。

○選定委員

「東京書籍」は、1項目4ページ構成で、主な内容のページを開かずに自分たちで課題発見ができるようにつくられているところと、文節改行になっており、児童が理解しやすくなっている。「東京書籍」も「学研」もイラストや写真が多く使われているが、特に「東京書籍」は表、グラフの数を多く掲載しているため、児童の学習が深まると考える。

○委員

くまがやラグビー・オリパラプロジェクトに関しての違いはありますか。

○選定委員

発行社によっては、オリンピック・パラリンピック関連や他教科との関連の扱いに温度差があります。横断的な視点からすれば、「東京書籍」は、他教科との関連が具体的に明確に示されている割合が多く、教師も関連事項が把握しやすく、指導のしやすさにつながっていくものと考えます。

○教育長

体育については、「東京書籍」と「学研」という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、外国語について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「東京書籍」、「開隆堂」、「学校図書」、「三省堂」、「教育出版」、

「光村図書」、「啓林館」の7社のうち、「光村図書」「開隆堂」の2社について報告する。

「光村図書」は、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能において、「聞くこと・話すこと」では、設定場面に応じた活動が行われ、コミュニケーションの目的がはっきりとしている。

「読むこと」「書くこと」では、新たに導入される領域であることから、まずは、「聞くこと・話すこと」に十分慣れ親しんでから、文字、単語、語句、文と段階を踏んで、無理なく学習できるよう配列されている。6年生の6、7ページを見ていただくと、各ユニットの流れは、「Hop!」「Step1」「Step2」「Jump!」の順で4部に構成されており、「Hop!」で目標表現をつかみ、「Step1・2」では聞く活動から始まり、話す活動を経て、読み書きの活動へとスモールステップで進んでいく。そして最後の「Jump!」で、慣れ親しんだ語彙や表現を読む活動や、映像を視聴しながら考え方や表現の方法を広げる活動を通し、自分の考えや思いを伝え合う活動が配置されている。この学びの流れは、何度も繰り返し出会いながら英語を習得していくという熊谷市で進めている「ラウンド制」につながる内容である。

「開隆堂」は、2年間を通じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の目標を達成できるよう、無理なくゴールの自己表現活動につなげられるよう配慮されている。さらに、学習した観点を振り返るためのリストが巻末に設定されていて、主体的に学ぶことができる工夫が施されている。ペア学習やグループ学習では、既習の表現を繰り返し行うことで、語彙や表現の定着を図る工夫がされている。教科横断的な視点では、他教科に関連した情報や表現のある該当箇所は、目次と該当ページの2箇所ですべて「他教科との関連がわかるマーク」で示されており、他教科と連携しやすく工夫されている。全体として、単元の最初で目標を示し、活動の見通しをもたせながら、活動させ、単元末で学習したことを活用したコミュニケーションを行うという構成になっている。

教える教員にとっては、「光村図書」では、各ユニットが、これまで慣れ親しんできた英語活動の流れを継承し、「聞く・話す」活動から段階的に「読む・書く」活動に構成されていることで、学ぶ児童に負担を感じさせないこと、ユニットの最初に目標として「Goal」が設定されていること、さらに、「ふりかえろう」というリストがあり、繰り返し学ぶよう構成されていることが、熊谷市の「ラウンド制」に対応すると考えている。

【質疑応答】

○委員

両社とも熊谷市の「ラウンド制」に対応するということが、中学校への接続の

視点で、どのような特色や工夫があるか。

○選定委員

両社とも、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4つの技能を身につけさせるために工夫がある。例えば「光村図書」では、まずは、「聞くこと」「話すこと」を重点的に行い、十分に慣れ親しんだ後に「読むこと」「書くこと」の学習に移る工夫があり、中学校でのラウンド制に対応できるようになっている。

○委員

これまでの英語活動では「聞くこと・話すこと」を重点的にやってきたと思うが、新たに導入される領域である、特に「書くこと」について、どのような工夫があるか。

○選定委員

両社とも、第2線と第3線の間を広く取り、児童にとって文字が書きやすくなる工夫がある。英文を書く活動では、書く欄を大きく取っていることは共通しているが、光村図書では、全くの空欄ではなく、ヒントの語を薄く載せてあり、児童が取り組みやすい工夫がされている。

○教育長

外国語については、「光村図書」「開隆堂」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、道徳について説明を求める。

○選定委員

選定委員会としては、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」「光村図書」「日本文教出版」「光文書院」「学研」「廣済堂あかつき」の8社の中から、「東京書籍」と「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」は、全体として児童がよりよく生きようとする心を育てる学習活動として様々な工夫がみられた。具体的には、活動型の教材や問題解決的な学習、いじめ問題を考える教材、人との関わりの中で考えることができる学習活動などを取り入れている。

最初の活動型の教材では、教材をそのままたどることで「考え、議論する道徳」の授業を自然に組み立てられるようになっている。

例えばその一例として、4年生98、99ページを見ていただくと、読み物教材

とは異なる形式の教材で、児童の多様な考えを引き出すことができる。

次に、問題解決的な学習では、児童が「はっ」とする場面を設定し問題意識を高め、「考えるステップ」という記述をもとに話し合いの手引きとなる構成がされている。

さらに、全学年に掲載されている「いじめのない世界へ」のページでは、学年の発達段階に応じた内容で、いじめを深く考えることができるよう工夫されている。

熊谷ラグビー・オリパラプロジェクトとの関連だが、「つながる 広がる」のページの中で、各教科等との関連を示している。さらに、「振り返りのページ」を使い、自己の変容を「見える化」することができる。

「教育出版」は、「考え、議論する道徳」の授業を実現するための工夫がみられる。

まず、1時間の学習の流れです。学習の目的をつかむため、ねらいとする道徳的価値にふれる内容を、キャラクターの吹き出しで呼びかけるように表現されている。次に「学習の手引き」では、「やってみよう」「考えよう」「深めよう」の項目があり、「やってみよう」では、それぞれの役になって演じるなどの役割演技へ導くもの、「考えよう」では、ねらいとする道徳的価値に関わる発問が記されている。そして、「深めよう」では、考えたことのまとめをさせるような構成をしている。

「いじめ」については、直接的な教材だけでなく、間接的な教材も取り上げ、いじめをしない心を育てる工夫をしている。

「くまがやラグビー・オリパラプロジェクト」との関わりについては、教科学習や学校行事との関連が図りやすい教材の配列になっている。

【質疑応答】

○委員

熊谷の子どもにとっては、どちらがよいと考えるか。

○選定委員

「東京書籍」だと考える。よりよく生きようとする心を育てるための活動型教材や問題解決的な学習、いじめ問題を考える教材、人との関わりの中で考えることができる学習活動を取り入れているからである。

○委員

道徳の見える化という観点では、どの発行者が一番適しているか。

○選定委員

「東京書籍」である。巻末にある「学習の記録」、「学習の振り返り」、「学習のまとめ」では、教材ごとや長期休業前、1年間の学習を振り返るページ等があり、自分自身の成長を感じることができるよう工夫されている。また、他教科や特別活動とつながる発問が設けられており、授業で学んだことを実生活につなげて考えさせ、

実践に生かすことができるように構成されている。

○教育長

道徳については、「東京書籍」と「教育出版」という推薦があった。これらを参考に、採決することでよいか。

○委員一同

異議なし

○教育長

次に、特別の教科 道徳を除く中学校用教科書について一括して説明を求める。

○選定委員

特別の教科 道徳を除く中学校用教科書について、報告及び推薦をする。

本市が、平成28年度から使用している教科書について、この4年間、指導主事が学校訪問の機会等で、教科書の使用実績を把握してきたとの報告を受けている。また、本年度改めて、市内すべての中学校16校において、学校研究を依頼した。

これらの結果から、現在使用している教科書については、生徒にとっても、これを使う教員にとってもよい教科書であるということが判断できる。よって、教科書選定委員会としては、この結果を尊重し、現在使用している次の教科書を、令和2年度使用教科用図書として推薦する。

国語、「教育出版株式会社」

書写、「教育出版株式会社」

社会（地理的分野）、「東京書籍株式会社」

社会（歴史的分野）、「東京書籍株式会社」

社会（公民的分野）、「東京書籍株式会社」

地図、「株式会社帝国書院」

数学、「株式会社新興出版社啓林館」

理科、「東京書籍株式会社」

音楽（一般）、「株式会社教育芸術社」

音楽（器楽合奏）、「株式会社教育芸術社」

美術、「開隆堂出版株式会社」

保健体育、「株式会社学研教育みらい」

技術・家庭（技術分野）、「開隆堂出版株式会社」

技術・家庭（家庭分野）、「開隆堂出版株式会社」

英語、「光村図書出版株式会社」

【質疑なし】

○教育長

特別の教科 道徳を除く中学校の教科書については、これまで4年間使用してきた教科書という推薦があった。これらを参考に、採決することによいか。

○委員一同

異議なし

【休憩】

【選定委員会委員及び傍聴人退出】

【再開】

(採決については非公開)

【「議案第34号 令和2年度使用小学校用教科書（特別の教科 道徳を含む）の採択について」の採決結果】

国語、教育出版株式会社
書写、教育出版株式会社
社会、東京書籍株式会社
地図、株式会社帝国書院
算数、東京書籍株式会社
理科、教育出版株式会社
生活、東京書籍株式会社
音楽、株式会社教育芸術社
図工、日本文教出版株式会社
家庭、開隆堂出版株式会社
体育、東京書籍株式会社
外国語、光村図書出版株式会社
道徳、東京書籍株式会社

【「議案第35号 令和2年度使用中学校用教科書（特別の教科 道徳を除く）の採択について」の採決結果】

国語、教育出版株式会社
書写、教育出版株式会社
社会（地理的分野）、東京書籍株式会社
社会（歴史的分野）、東京書籍株式会社
社会（公民的分野）、東京書籍株式会社
地図、株式会社帝国書院

数学、株式会社振興出版社啓林館
理科、東京書籍株式会社
音楽（一般）、株式会社教育芸術社
音楽（器楽合奏）、株式会社教育芸術社
美術、開隆堂出版株式会社
保健体育、株式会社学研教育みらい
技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版株式会社
技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版株式会社
英語、光村図書出版株式会社

教育長の宣言により、令和元年7月臨時熊谷市教育委員会を閉会した。

（11時20分 閉会）

署名 教育長 野原 晃

委員 齋藤 洪太